

育苗準備編

4月以降気温が高い見込み、作業が遅れないよう注意を

- 気象庁が19日発表した3ヶ月予報では、4月から6月の気温は高い確率が50%の予報となっており、育苗期の気温が高くなることが予想されます。生育が進む恐れや苗焼けが心配されますが、育苗時の温度管理に注意してください。

イネが生育しやすい土壤環境を整えましょう

- イネが生育しやすい土壤環境を作るため、稻わらや堆肥等の**有機物を投入**(ガス害を防ぐため秋の投入が望ましい)しましょう。また倒伏防止や、いもち病軽減、高温対策のため、**ケイ酸資材を10a当たり100～150kg施用**しましょう。
- 耕起深が浅いとイネが根を張れないため初期成育や分けつが悪くなります。また稻わらなどの残渣も埋没しにくいので、**耕深は15cm**を目安に耕耘しましょう。

苗種ごとの育苗期間・播種量・苗質などの目安

昔から苗半作といわれるよう、苗の良し悪しがその後の生育を左右します。
基本的に返って失敗しないようにしましょう。目標とする苗質、箱数等は下表のとおりです。

苗種	育苗期間	箱当たり播種量(g)		10a当たり 箱数	目標の苗質	
		乾糞	催芽糞		草丈(cm)	葉数(枚)
稚苗	20～25日	130～150	160～180	16～20	10～15	2.0～2.5
中苗	25～40日	80～100	100～125	24～30	15～20	3.0～4.0

育苗は田植日から逆算して計画的に進めましょう

- 稚苗か中苗か田植する苗の大きさにより育苗日数が異なるので、例に倣って田植日から逆算し計画的に作業日程を設定しましょう。また、苗の大きさで播種量、箱数も異なるので、種や用土など過不足のないよう準備しましょう。



5月20日頃の田植を想定した育苗計画の例

水稻共済に加入しましょう！

もうすぐ田植が始まります。
台風や長雨、いもち病などの
災害に対する備えは万全ですか？
水稻共済に加入して多発する災害に備えましょう。



育苗資材の準備

育苗器・育苗箱

ケミクロング又はイチバンの1000倍液で浸漬
もしくは500倍液で散布

育苗用土

粒状培土を1箱当たり4~5ℓ用意し、タチガレン粉剤を箱当たり3~6g混和する
(粉剤に変えて播種時又は発芽後にタチガレン液剤の散布も可)

種もみの準備

うるち:水10ℓに塩2.1kg もち:水10ℓに塩1.3kg

塩水選

所定の塩水濃度(比重:うるち1.13、
もち・酒造米1.08)で充実した種子を選ぶ
ことにより、出芽揃いが良くなる。
塩水濃度は比重計で確認するが、簡便な方法
として卵を使った方法がある。(右図)
塩水選後は水洗いして水切りする。

(図1)卵を使った塩水の作り方



種子消毒

薬剤処理の場合は、テクリードCフロアブル200倍液とスミチオン乳剤1000倍液の混合液を作り水温15℃以上に保ち、攪拌しながら浸漬する。消毒後、風乾し浸種へ
温湯処理の場合は、対流型温湯処理機を使い、うるちは60℃、もちは58℃の温湯にそれぞれ10~15分浸漬し、直ちに冷水で冷やす。

浸種

水温15℃で7日間 又は 10℃で10日間

発芽を均一にするための作業。必ず清水で行い、種もみ1kgに対して水約3.5ℓの割合とする。

種子消毒効果を高めるため、浸種開始後2~3日間は水交換しない。その後は1~2日おきに水を交換し、酸素供給を促す。

水温15℃で7日間又は10℃で10日間程度浸種する。

催芽

鳩胸程度

催芽は、水温30~32℃で20時間が目安です。
芽と根が1mm出た鳩胸状態を必ず確認してから終了し、伸びすぎに注意すること。(右図)

(図2)催芽の状態



播種



NOSAI 山梨 山梨県農業共済組合 <https://www.nosai-yamanashi.or.jp>

■中央支所

TEL:0553-22-5056

■北部支所

TEL:0551-23-1111

■南アルプス支所

TEL:055-282-0443

■富士支所

TEL:0554-45-6611

■本所

TEL:055-228-4711